

NEWS LETTER KUMAMOTO

2015. Summer Vol. 106

■発行：一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団

〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館

■Publisher: Kumamoto International Foundation

4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806

TEL: 096-359-2121 / FAX: 096-359-5783

e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: <http://www.kumamoto-if.or.jp/>



特集：外国にルーツを持つ子どもたちの支援

外国にルーツを持つ子どもたちとは...？

両親が外国人、または父母の一方が外国人の子ども、または日本人と再婚した外国人親の連れ子として母国から連れてこられた子どもや、両親が日本人でも成育の途中で外国にいたなど、外国になんらかのルーツを持つ子どもたちのことです。そのバックグラウンドはさまざまで、日本国籍でも日本語が母語でない子どもや、外国籍や外国育ちでも日本語が堪能な子どももいます。中には外国語も日本語もどちらも年齢相応の言語能力がついていないダブルリミテッドといわれる子どももいます。

現在、熊本県内の小・中学校や高校に通う外国にルーツを持つ子どもは少なくありません。外国にルーツを持つ子どもたちを取り巻く環境には、どのような課題があるのでしょうか。今回は、「NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと」代表の竹村朋子氏にお話を伺いました。

※ K：KIF インタビュアー 竹：竹村朋子氏

K：日本語指導が必要な子どもというと外国籍の子どもや外国人の子どもをイメージすると思うのですが、そのような子ども達だけではなく日本人の子ども達も含まれるのですか。

竹：大きく分けると①日本国籍の帰国子女、②外国から来た外国籍の子ども、③日本生まれや幼少期に来日した子どもで（日本国籍及び外国籍）、日常会話は話せても学校の授業の言葉が理解できない子どもです。①、②は帰国及び来日時は日本語が話せないのが指導の必要性がすぐ理解できるのですが、③の場合、日常会話はできるので日本語指導の必要性がわかりにくい場合が多いのです。

①のように日本国籍の子でも対

象になります。両親の仕事などで、外国で生まれたり、育ったりした子がいますが、育った国の言葉も日本語も十分に習得できていない場合があります。このような子どもには学習の言葉や漢字、教科書の内容把握のための読解練習などの指導が必要です。

K：このようなケースの問題点は何ですか。

竹：言葉の習得には年齢によるところが大きいと思います。母語が十分に身につけていない年齢で海外へ行くと、学習言語や学習能力が備わっていないため、外国語での学習が十分に理解できません。さらに、日本に帰ってきてからも日本語をうまく受け入れられない傾向にあります。一方、母語での



＜特集＞

外国にルーツを持つ子どもたちの支援・P1～P3

世界へ羽ばたく・・・P4

・留学生からの現地レポート

ちょっといわせてはいよ！・・・P5

・新しい CIR の紹介～梁 娟美さん～

目次

Contents

未来のために・・・P6

・海外にルーツを持つ子どもたち

事業団多文化共生アドバイザー 羽賀 友信さん

世界を知る～It know the world～・・・P7

・「世界へ羽ばたけネパールのコーヒー」

青年海外協力隊 OG 川添 安紗比さん

ちょっと日本語/きふプロ

平成 27 年度賛助会員・・・P8

学習がある程度できるようになった学年で海外に行った場合、学習能力が身につけているため、外国語での学習も理解しやすく、幼い頃から海外へ行った子に比べると母国に帰ってきてても比較的容易に学習についていけるようです。

K：海外へ行く(連れて行く)時期というのは、子どもの言語習得にすごく影響があるのですね。

竹：はい。以前は、小さい子のほうが大丈夫、大きくなったらなかなか語学が身につかないし大変だと思われていたんですけど…。幼稚園、またはその前から来日した子どもの学習言語の習得が難しいというケースが見られます。

K：やはり母語が確立されていないから、外国語の習得が難しいということですか。

竹：そうですね、私たちは、最初、海外から日本へ来たばかりの小中高生を対象に日本語指導を始めたんです。ところが、活動を進めていく中で、日本生まれ、幼少期に来日した子どもの中にも日本語に問題がある子がいるという情報があり、最近ではそのような子どもの指導が増えています。

K：地域での日本語指導の現状としてはいかがでしょう。

竹：熊本県では日本語指導は各自治体の教育委員会に任されています。日本語指導がない自治体もあり、自治体間の格差が大きくなっています。日本語指導を導入していない自治体の教育委員会等に日本語指導の必要性を説明し、導入を働きかけているのですが、人員、予算等の問題で対応が難しいケースがあります。

K：外国にルーツを持つ子どもたちが抱える学習での問題は何かですか。

竹：まずは言葉ですね。能力はあっても教科書の文章内容がわかりません。あとは文化の違いです。例えば、中国では大皿から自分が好きなものを直接取って食べるため、給食のように個人的に配布されたものを全部食べなければならないという習慣はありません。そのため、日本の給食が苦手な子もいます。また、海外では学校にプールがある国が少ないようで、水泳の授業も大変なようです。

K：学習以外にも彼らが困ることがありますか。

竹：これは子どもだけの問題ではないのですが、その本人が、その国の代表的な存在になり、母国で起こる事件や問題を周りから言われ、いじめを受けたりからかわれたりします。以前、中国での毒入り餃子問題が起きた時には、時事問題として授業で取り扱われ、戸惑ったこともあるようです。また、最近では環境汚染問題として“PM2.5”が授業で取り扱われ、中国人としていたたまれなくなったり、中国籍の子どもが学校で“PM2.5”と呼ばれいじめにあったりもしました。

「言葉の壁」や、「文化の壁」が解消できても、最後は人間関係の距離間など、「心の壁」が残るといいます。外国の人からすると日本人同士の人間関係の距離感が遠く感じられるようです。日本人は親しくなったと感じていても、日本人独特の距離感が彼らに疎外感を生んでいるようです。



《交流会の風景》

K：学校の外では、いかがでしょうか。

竹：家庭でも問題があります。両親が共働きの場合、なかなか親子で会話する時間もしっかりと取れないので、心のケアができないし、親の言葉(母語)も育ちません。また、国際結婚の連れ子の場合は、両親の離婚後、母国でしばらく祖父母に育てられ、親が日本人と再婚したことで日本に連れてこられます。実の親とも長く離れていたため親子関係の再構築が難しく、また、新しい日本人の親や、新しい家族の中で生まれた兄弟との関係にうまく溶けこめず、家庭内でも孤立してしまう恐れがあるのです。学校でも家庭でも疎外感を感じてしまう。子ども達にとっては心の問題は深刻だと思います。

K：言葉による問題ばかりと思っていたのですが、言葉以外にも様々な問題があるんですね。次に、NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもとの活動について教えてください。

竹：「NPO 法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと」は、平成21年(2009年)より『外国にルーツを持つ子どもたち』の支援に取り組んでいます。①「くまもとこどものにほんご」(熊本県内の小中学校に在籍する外国ルーツの子どもたちへの日本語教育)②「外国ルーツの生徒と保護者のための進路ガイダンス」(高校進学支援毎年7月開催)③「外国ルーツの生徒交流会」(仲間づくり毎月3月開催)④「おるがったステーション」(学習支援と居場所づくり毎週日曜日)や「@ほ〜む」(大学生部)です。この四つの柱を掲げ活動を行っています。



(進路ガイダンスの様子)

K：日本語支援(教育)活動の中で今後の問題点や課題は何でしょうか。

竹：一番の問題は、日本語指導の自治体間格差だと思います。日本語指導がない自治体では、日本語指導についての知識不足から、先生が一生懸命小学校低学年の国語の教科書を読んで聞かせ

ているところもあります。しかし、これは日本語教育ではなく国語教育です。日本語が話せる日本の子のためのものですから、外国から来た子のための日本語指導にはなりません。

現在は熊本市や八代市をはじめ、菊陽町、大津町等13の市町村が日本語教育を行っています。しかし、まだ言葉がわからず苦労している子どもたちが大勢いますし、これから国際化が進むにつれ、様々な地域でこのような外国にルーツを持つ子どもたちが増えてくると思います。日本語支援についての取組みは急務だと思います。

次の課題は専門の日本語教育指導者の育成です。現在、当NPO法人では、モデル授業等の研修会の開催や、教案のチェックなどの指導者育成を行っています。学校の授業内容は日々進んでいくので、日本語がわからず学習に遅れている子どもたちをいかに早くその学年のレベルに高めるかが重要です。遅れれば遅れるほどついていけなくなるので、指導者の責任は重大です。優秀な指導者が地域にも必要です。

最後になりますが、日本語教育の必要性や子どもたちの抱える問題をご理解頂き、日本語指導、学習支援、居場所やネットワーク作り、高校進学や学習相談などの支援を学校教育の中に取り込んでいただければと思います。

K：竹村さん、この度は外国にルーツのある子どもたちの支援についての貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

NPO 法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと

募集しています！

賛助会員・寄付

継続的に外国ルーツの子どもたちの支援活動を行なっていくためにご支援よろしくお願い致します。

個人 年会費 1 口=1,000 円 団体 年会費 1 口=5,000 円

口座名称「NPO 外国から来た子ども支援ネット熊本」

郵便振替口座01760-3-165967 番

日本語指導員

日本語を外国語として学ぶ子どもたちのために日本語教育専門の指導員(有資格者)を各学校へ有償で派遣しています。さらに指導技術の向上のため、月1回の研修会を行なっています。日本語教育専門の教師の方の参加をお待ちしています。

学習支援・交流会ボランティア

教科学習支援・進路ガイダンス・生徒交流会などの活動を定期的に行なっています。子どもたちに寄り添い、サポートする活動にご協力いただける方をお待ちしています。

事務局

〒861-1102 熊本県合志市須屋 3120-9

代 表：竹村 朋子 Phone：090-3986-3401



世界へ羽ばたく

当事業団での学生ボランティアやインターン活動、また、国際ボランティアワークキャンプ in ASO、グローバルワークキャンプ等に参加した学生の皆さんが世界各国へ留学しています。このページでは、その留学している学生達の、感じた事・体験した事を現地レポートとして掲載していきます。



(左が筆者)

「フランス留学現地レポート」

九州大学 21 世紀プログラム 4 年
フランス国立東洋言語文化大学 (INALCO) 日本語学部へ留学 **内尾 晶子さん**

高校時代から参加しているボランティアワークキャンプやグローバルワークキャンプ、そして KIF でのインターンシップで多くの外国人や日本人と知り合い、「世界を自分の目で見て感じたい。」「世界で活躍できる人になりたい。」と思い、留学を決意しました。フランスに留学を決めたのは、フランス語が国際機関で使用される公用語であり、研究対象としているアフリカの多くの国で話されている言葉だったからです。

私の留学先である INALCO には日本学部があり、日本人留学生はフランス語の授業の他に、日本学部の日仏・仏日翻訳や日本の経済・歴史・社会問題(少子高齢化やセクシャリティー等)の授業を、フランス語で勉強しています。また、フランス人学生と日本人留学生がペアになり、週に一度2時間程度フランス語と日本語を教えあう交換授業があり、授業で分からない所を教えあったり、会話の練習をしたりします。

フランスに来てすぐの頃は授業も周りの人が話していることも分からず、Bonjour(こんにちは)ですら、発音が間違っていると友達に2時間指導される有様でした(笑)周りの人に恵まれ、少しずつ友達もできフランス語も話せるようになり、最近は特に充実した毎日を送っています。

さらに、留学先がパリなので、ルーブル美術館や凱旋門、エッフェル塔など有名な美術館や観光地も多くあり、異国の文化に触れる貴重な機会に恵まれています。特に EU の学生なら多くの美術館や歴史建造物等に無料で入れるので、週末や休暇を利用し、留学中に少しでも多くの所に行きたいと思っています。



(大学の友人とパリ散策)

フランスでの留学を終えた後、ボランティア活動と卒論調査のため、アフリカに1ヶ月半ほど滞在する予定です。アフリカでより一層自分の夢に近づくための経験ができればと考えています。残りの留学生活、悔いが残らないように精一杯頑張ります。

FairTrade Station

link café

イベント案内

8月25日(火)～30日(日)は

link café一周年記念ウィーク!

国際交流会館 1F link café(リンクカフェ)オープン一周年を記念して、イベントを開催いたします♪まだ来たことがない!という方も、是非この機会に足をお運びください★



グラスアート

日 時: 平成 27 年 8 月 25 日(火)
午前 10 時半～正午
参加費: 2,000 円
(フェアトレードコーヒー付)
定 員: 15 名

プリザーブドフラワーアレンジメント

日 時: 平成 27 年 8 月 26 日(水)
午前 10 時半～正午
参加費: 2,500 円
(フェアトレードコーヒー付)
定 員: 15 名



バナナペーパークラフト

日 時: 平成 27 年 8 月 27 日(木)
午前 10 時半～正午
参加費: 500 円
定 員: 15 名

《店長コメント》

昨年の 8 月、フェアトレードと地産地消にこだわったカフェとして link カフェは誕生しました。多くの方々に支えられ、育てて頂いた1年間でした。これからも皆様に愛される店を目指して頑張っております。link カフェ一同、皆様のご来店を心からお待ちしております。

《各イベントについての申込み・問合せ》

TEL: 096-359-2121
(熊本市国際交流振興事業団)

フェアトレードと地産地消 こだわりの店 link café(リンクカフェ)
TEL: 096-359-4992
E-mail: linkcafe@kumamoto-if.or.jp

熊本の皆さん「大家好！」



中国国際交流員（CIR）

梁 娟美さん

私は梁娟美（リョウ ケンビ）と申します。中国桂林にある広西師範大学の教師です。大学で、外国人の学生に中国語と中国文化を教えています。名前をアルファベットによる中国語の記号表記（ピンイン）で書くと、Liang Juanmei、となります。音の上がり下がりがあり発音が難しく、外国人にとってはなかなか発音しにくいので、よく皆さんに「Mei 老師」（Mei 先生）と呼ばれています。これまでほとんどの時間を学校の中で過ごし、また学校で仕事もしているので、子供や若い人たちと一緒に過ごす時間がかなり多いからかもしれませんが、みんなからはいつも「子供っぽい」と言われています。

中国の南方の出身なので、小さい頃から雪国に憧れがあり、高校を卒業する際に、故郷からずいぶん離れた中国のほぼ最北端に位置する吉林の大学に進学しました。雪が見えるよう、わざわざとできるだけ北の大学を選んだのですが、大学時代の4年間はあいにく史上稀にみる乾燥気候の時期にあたり、たまにしか雪を体験できませんでした。その上驚くことに、故郷から大学までは、当時の車のスピードで3日間もかかっていたいました。そんなつらい旅をして、はるか遠くの北へ行き、雪を見たい気持ちで一杯なのに、なかなか本場の雪に出会えなかった気持ちをどう表現するといいいのやら。残念というより、悔しいといったほうがいいでしょう。加えて学校が休みに入ると、また3日間かけて車で故郷へ帰っていました。こんな辛い体験がありましたので、院生の時には、遠くもなく、車も乗りかえずに済む北京の大学を選びました。北京は中国の首都で、オリンピックの後には、随分過ごしやすい場所となっ

たものの、気候の面では、北に位置しているし、少し内陸でもあるし、空気がとても乾燥しているし、私にはなかなか慣れることが出来ませんでした。いろんな所で生活して、体験してみるのには、学生の時期が一番いいチャンスだと思います。それによって、自分が将来生活したいところが見つけれられるからです。私は将来ずっと生活していきたい所を、桂林と決めました。

桂林は、世界でも有名な観光地、まるで水墨画の世界です。中国語で、「桂林山水甲天下」という詩があり、これは「桂林の山水は、天下に冠たり（天下第一である）」という意味です。桂林は、単に自然が堪能できる美しい所というだけではなく、歴史と文化の面でも随分恵まれています。歴史では、今から一万年前の甌皮岩時代には、母系氏族社会に入りました。夏商周時代には、桂林は百越人の居住地になりました。中国が最初に統一された秦の時代（紀元前214年）には、桂林で霊渠（運河）が開かれ、その後運河に沿って北にある首都までつながりました。桂林は、その時から桂林郡となりました。漢、三国、隋、唐、宋、元、明、清、そして今日に至る長い歴史の中で、たくさんの名所旧跡が残されています。それに、こんな素晴らしい所に輝かしい文化を創り出したのは、ここで生活している21もの少数民族です。少数民族の豊かな民俗文化と風俗習慣も、桂林の大きな特徴の一つと言えるでしょう。

熊本は、水と森の都で、桂林と同じ素晴らしい景色と多くの文化財を持つ所です。舟橋聖一の『**花の生涯**』に、『**天守の窓にもたれて、若き直弼は山紫水明の眺めに飽きることを知らなかった**』とありますが、熊本の魅力は、まさに「山紫水明」の世界です。熊本と桂林は、名実相伴う「姉妹」のように、美しい風景と歴史のある都市です。

これから一年間短い間ですが、私は国際交流員として、中国文化講座やサロン、イベントを行うことで、姉妹都市の皆さんに桂林のこと、また中国のことを紹介させていただきたいと思っています。これをきっかけにして、互いに友好都市の文化と理解を更に深め合い、また、熊本の皆さんから熊本や日本の文化も教えていただければ、私もとても幸せです。

未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。



筆者：羽賀 友信さん

- ・長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
- ・新潟 NGO ネットワーク顧問
- ・JICA 地球ひろば 国際協力サポーター
- ・長岡市教育委員
- ・JICA 専門家
- ※当事業団多文化共生アドバイザー

海外にルーツを持つ子どもたち

私の知り合いにアフガニスタンから 14 歳で父親を頼って移民し、日本に帰化した女性がいます。内紛状態の国で育ち教育の機会がなかったために、文字だけでなく数字の読み書きもできず、時計すら理解することができない方でした。彼女は、夜間中学で日本語を覚え、高校に無事入学、順当に卒業後、大学に入学しました。途中、オーストラリアに留学もし、現在では 5 力国語を自由に操っています。また大学卒業後は、その語学の才能を生かし、通訳・翻訳、講演・執筆活動、モデルなどで活躍しています。

一見、順調に見える彼女ですが、日本語の習得、人種差別、いじめ、アイデンティティの喪失、紛争地の PTSD、親子関係の悪化など、海外にルーツを持つ子どもが直面する多くの課題を抱えて育ちました。精神的に強靱であり、知的能力も高いため、現在の状況に至ることができましたが、彼女の著書にサインをしてもらったとき、アラビア語表記で帰化する前のアフガン名を書いていた。たまたま私が理解できたため質問したら、自分がアフガン人なのかウズベク人なのか日本人なのかよくわからないと説明をしてくれました。小さいときは就学のチャンスがなかったためアフガニスタンのことが全くわからず、日本に来て日本語ができるようになってからも、日本の子ども時代がなかったため、その部分が同様に空白になっていたためです。

【海外にルーツを持つ子どもの実態】

ひと、もの、金、情報が自由に国境を越えて移動するグローバル化の時代、日本の外国人住民（住民基本台帳に基づく人口）は、平成 27 年 1 月 1 日現在、約 206 万 3 千人で、総人口の 1.6% となっています。かつては 1990 年の入管法改定などに伴い、多くの外国人が出稼ぎ目的で来日しました。さらに国際結婚間の日本国籍を有する子どもたちを足すと、外国にルーツを持つ子どもの数は 51 万人ともいわれています。しかし日本の学校教育は、日本国民の育成を目的としており、外国人が学ぶことは想定されていません。そのため多くの外国籍児童生徒が言語のみならず、学習や日本文化への適応をはじめ多々の困難を抱えています。

一方で、出稼ぎ目的で来たはずの人々が、定住化に舵を切ったことにより、呼び寄せや子どもの教育が大きな課題になっています。

日本語は、語彙数が多く、漢字、ひらがな、カタカナと覚える字の種類も多い言語であり、口語体、文語体

を含めると、習得が非常に難しい言語です。さらに日常生活で必要とされる生活言語と、学習言語と呼ばれる、認知、学習活動で必要となる二つの言語が存在します。生活言語は他者との関わりや遊び、テレビなどを通して身につけやすく、1、2 年で習得されると言われています。他方、学習言語は習得に 5～7 年必要だと言われています。しかし、現在の 100 時間程度の日本語初期指導では生活言語の獲得すら難しく、まして学習言語を身につけるに至らず教科学習の大きなハードルとなっています。

また、出身国と日本との学習内容の違いなども問題になっています。例えば日本は九九を前提に教えますが、九九を使わない国もあるため、指導は多文化の素養を持っていないと難しくなります。多くの教員は専門性がないため、指導が困難なばかりでなく、人員不足も子どもの指導の問題に輪をかけています。その結果、カリキュラム通りに学習が進まず、教科学習が極めて困難な状況になっているのです。

特に子どもたちは、再婚や出稼ぎの親による呼び寄せにより、突然日本に連れてこられることが多く、日本語の学習が事前にされることはほとんどありません。これも日本語の指導を困難にしている理由のひとつです。さらにいじめ等が加わると、ますます日本社会や日本の学校になじむことができない子どもが多くなり、アイデンティティクライシスを起こすケースがあります。また、国際結婚の離婚率は、平成 25 年で 5.1% であり、シングルマザーなど経済的に困窮している家庭が多いのも事実です。子の生活環境が悪くなるケースが日本人よりも高いのです。こうした家庭では親が低賃金で夜勤等に従事するため、兄弟が子育てをせざるを得ず、それが原因となり学校からのドロップアウト、地域での居場所のなさ等がエスカレートすると、半グレ集団やチャイニーズドラゴンのような社会問題となる集団に発展してしまうのです。

このように、本来なら日本で夢をかなえ、良き隣人やパートナーとして活躍できる人材が不利益を被らない社会をつくることは日本の地域社会にとって大きな課題であり、地方創生やグローバル化を考えたとき、重要な位置付けがなされるべきです。多様性を生かしたシステムをつくり上げることが、今後、地域の活性化につながるのではないのでしょうか。



世界を知る 〜It know the world〜

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

世界へはばたけ！ネパールのコーヒー

青年海外協力隊 OG かわぞえ あさひ 川添 安紗比さん

(平成 25 年 3 月〜平成 27 年 3 月 ネパール派遣 職種：村落開発普及員)

ネパールでは、道端で知り合いに出会うと、「ナマステ！サンチャイフヌンチャ？チャピューヌバヨ？」

(こんにちは！元気ですか？紅茶のみましたか？)と聞かれます。ネパール人にとって紅茶を飲むことは生活の一部で、飲んでいればいつも通り、飲んでいなければどうしたの？と会話が続いていきます。

このように会話の一部になるほど紅茶文化が浸透しているネパールですが、実は今、コーヒーの生産量が増えてきています。私は、ネパールのシャンジャという地域にあるコーヒー生産者組合で組織強化や帳簿指導の活動をしてきました。この地域では約 20 年前からコーヒーの栽培が始まり、現在ではネパールで一番の生産量を誇ります。なぜネパールでコーヒー栽培が盛んになってきているのでしょうか？これには大きな理由が 2 つあります。

1 つ目は、すぐに現金収入を得ることができることです。コーヒーの収穫・加工の時期には、連日多くの人たちが組合にコーヒーチェリーを売りに訪れ、その場で現金収入を得ています。多い日には 2 トン以上も集まりました。2014 年〜2015 年のコーヒーチェリーの買い取り価格は 1 キロ当たり 70 ルピー(日本円で約 58 円)。日本人の感覚では安いと感じてしまうかもしれませんが、ネパールでは 1〜2 回食事ができる金額なので、決して安いわけではありません。また、出荷前には全ての豆を手作業で選

別するため、多くの女性たちが作業をしにやって来ます。中には少しでも収入を増やすために高学年の子供を連れて一緒に作業をしている¹⁾女



↑コーヒーのハンドピッキングをする女性たち

性もあり、雇用創出と現金収入向上の役割を果たしています。

2 つ目は、国内・国際市場の受け入れ状態が整ってきたことです。過去には、生産しても国内での消費は少なく、国際市場でも買い手がつかず、買いたたかれる時代がありました。しかし、出稼ぎ帰りの労働者や観光客の増加で国内消費量が増え、それに加えてコーヒー豆輸出の主軸を担ってきたブラジルをはじめとする南米・中南米諸国での不作、中国など新興国の消費量増加によって、世界的にコーヒーが不足しています。また、フェアトレード²⁾の追い風もありネパールのコーヒーを適正価格で取引できる市場が整ってきました。

このような理由から、ネパールのコーヒー生産はまさに「旬」を迎えているといえます。一緒に仕事をしていた生産者は、「生産量はもちろんだけど、世界一おいしいコーヒーを作れるようになりたい。」と話していました。実際、高品質の豆が作れるようになってきています。まだまだ知名度が低く生産量が少ないネパールコーヒーですが、世界へはばたいていってほしいと心から願っています。

コーヒー加工所の作業員たちと↓



- i) 児童労働について：ネパール政府は児童労働を禁止する国際労働機関 (ILO) の一連の国際条約を批准し、児童労働の撲滅を図っているが、文化的に子供も家族を助ける貴重な労働力という考えが根強く残っており、貧しい家庭では特に子供も一緒に働いている。
- ii) フェアトレード：公正な取引。発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続して取引を行うことで、生産者の持続的な生活向上を目指すこと。

ちょっと Japanese Tip 日本語

NPO 法人日本語サポートあさ
代表 小川 ひろみ さん

日本語の文法を教える時

先日の日本語の教室は学生達を書いた「禁止ポスター」でいっぱいになりました。「物を置かないでください」「教室で食べないでください」「さわがないでください」等々。

日本語を教えるという文法を教えるとか、漢字を教えるとか思われがちですが、では文法や漢字を習った学習者はそれで何ができるようになるのでしょうか。つまり、役に立つ日本語を教えようとおもったら、その文法はどんな場面で必要かを考えることです。もし「～ないでください」を文法知識だけで対面で使ってしまったら、文法は正しくても相手を怒らせてしまうかもしれません。禁止表現は話すときよりポスターなどのような掲示で使うほうが自然ではないでしょうか。そんな社会的習慣も理解して初めて、文法は生きた日本語になるわけです。文法や表現を「ほんとうに役に立つ」視点でちょっと考えてみませんか。

きふプロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが繰るKIFのアクティビティ

インターネットでもっとたくさん紹介しています。
<http://blog.goo.ne.jp/kifblo>



はじめまして！私は韓国から来たソン ヒドゥと申します。今、熊本市国際交流会館の二階でインターンとして働いています。まだ日本語があまり上手じゃないですが、どうぞよろしくお願いします！交流会館の二階は一般に開放されているので、是非あそびに来てください！私は、日本が初めてなので見えるものが全て不思議に感じます。今も、ときどき日本らしい景色を見ると、あ！私は日本にいらんだと実感します。8月26日まで日本にいますので、その間にたくさんいろいろな経験してみたいです。それから、早く日本語がペラペラになりたいので、もし私を見かけたら是非日本語で声をかけてください！私も日本語が上手になるように一所懸命頑張ります！よろしくおねがいします！



はじめまして！私は韓国のソウルから来た大学2年生イテヨンです。専攻は英語通訳科ですが、趣味だった日本語が好きすぎて日本にきました！ちなみに19歳です(笑)。まだ、足りないところが多いので、もっと頑張りたいと思います。日本は熊本が初めてなんですが、静かで自然がきれいで好きです。熊本の人達、すごく優しいと感じました。日本に来てこんないい経験をさせていただいて本当にうれしいです。ここでたくさんの人と会って友達になりたいです！熊本市国際交流会館で色々な人達と会って話し合ったら、それこそ私の幸福です。今日はどんな方がいらっしゃるのか、いつも楽しみです。では、よろしくお願いします！

※2名は8月下旬まで国際交流会館でインターン生として活動しています。

☆平成27年度賛助会員募集！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、当事業団主催講座の受講料会員割引特典や、国際交流会館駐車場の割引もあります。

- ①個人会員 一口 2,000 円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000 円/年(一口以上)

平成 27 年 3 月までの会員期間となります。

<入会のお申し込み・お問い合わせ>

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています！

〔法人会員〕

- ・London Bridge International School
- ・株式会社 熊本シティエフエム
- ・株式会社 コスギ不動産
- ・株式会社 まちづくり熊本
- ・韓日社会文化フォーラム
- ・九州農水株式会社
- ・熊本市地域婦人会連絡協議会
- ・国立大学法人 熊本大学
- ・学校法人君が淵学園 崇城大学
- ・ホテル日航熊本

継続・新規ご加入 ありがとうございます。

(平成 27 年 6 月 30 日までにご加入いただいた皆様) 〔個人〕50 音順 (敬称略)

荒木 良祐	北里 富男	坂井 健宏	徳永 昭臣	宮崎 恵子
安藤ゆかり	北田 真紀	坂口 香織	馬場 節子	毛利 綾
石渡 豊美	木下 時夫	澤田 寛旨	原 幸代子	森山 洋子
稲葉 雅美	久保寺恵美	澤村ヒロミ	古川 純子	山本 修
大川 真紀	倉田 秀樹	清水ミノリ	古河 幹男	吉田千賀子
大久保 篤	古賀 愛子	高宮 浩二	古澤利恵子	
岡本 哲朗	古賀 実	田中 梓	前瀬 啓子	
川畑 文香	小堀 郁江	田中 瑞代	松村紀代一	



- 阿蘇くまもと空港より 車で 45 分
- 熊本交通センターより 徒歩 3 分
- 熊本市電花畑町より 徒歩 3 分

from Aso-Kumamoto Airport-
45minutes by car
from Kotsu Center-3minutes walk
from "Hanabata-cho"
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前 9 時～午後 8 時

多文化共生オフィス TEL:096-359-4995 (直通)

休館日 第 2・第 4 月曜日、年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation

Kumamoto City International Center

Service Hours 9:00a.m.-8:00p.m.

Multicultural affairs office Phone:096-359-4995(Dial-in)

Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th-Jan. 3rd